

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	53	大学等名	文化学園大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、大学全体にグローバル化を具体的な形をもって推進しようとする機運が醸成されたことにより、教育の質的保証に資する学修成果の可視化を目指した「ラーニング・ポートフォリオ」が導入され、また、当該大学の特徴に合わせた長期的な学外学修プログラムの実施に向けた検討が進められ、令和2年度から授業時間の変更により学外学修期間の延長を可能にするなど、大学改革が着実に進められている点は評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の計画に基づき、目標の達成に向けて事業を着実に実施し、参加学生のエンパワーメントにもつながっていると評価できる。また、中間評価及びフォローアップにおいて指摘された課題についても、解決に向けた体制整備や授業時間の変更等努力されていることから、今後の展開が期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況は、本事業の独自性を継続発展させるため、主たる審議・決定機関である「AP推進協議会」存続が決定したことに加え、教育プログラムの意思決定を行う実行機関である「AP対応ワーキンググループ」が内部設置されている「USR推進室」に事業運営に関わる予算措置が行われたことにより、補助機関終了後も安定的な予算措置も含めた事業継続の体制が整えられたと言え、十分評価できる。

事業成果の普及については、ファッション教育領域における長期学外学修の成果をファッションビジネス学会等での発表や、平成27年度からの継続した参加学生による報告書の発行及び関係機関への配布など、波及効果を意識した取組を積極的に行っていると評価できる。